

サムエル記第一 (12)

「契約の箱の返還 (2)」

1 サム 6 : 13~7 : 1

1. 文脈の確認

I. 王政に向けた準備 (1~9 章)

A. サムエルの誕生と幼少期 (1 章)

B. ハンナの賛歌 (2 : 1~10)

C. シロでの霊的状况 (2 : 11~36)

D. サムエルの召し (3 章)

E. 契約の箱 (4~7 章)

1. 奪われた契約の箱 (4 章)

2. 契約の箱の力 (5 章)

3. 契約の箱の返還 (6 章)

(1) 神の裁きを終わらせる計画 (6 : 1~12)

(2) 契約の箱のベテ・シェメシュへの帰還 (6 : 13~18)

(3) 契約の箱のキルヤテ・エアリムへの移動 (6 : 19~7 : 1)

2. 注目すべき点

- (1) 契約の箱がペリシテ人によって略奪された。
- (2) イスラエルは「神の栄光が去った」と理解した。
- (3) 契約の箱は、ペリシテの地で力を発揮する。
- (4) ペリシテ人たちは、契約の箱を返還する。
- (5) 契約の箱は、ベテ・シェメシュの人たちを打つ。

命題：神に近づくには、神が定めた方法に従わなければならない。

この箇所を 2 区分して学ぶと、それが分かる。

I. 契約の箱のベテ・シェメシュへの帰還 (6 : 13~18)

1. 13~14 節

1Sa 6:13 ベテ・シェメシュの人たちは、谷間で小麦の刈り入れをしていたが、目を上げると、神の箱が見えた。彼らはそれを見て喜んだ。

1Sa 6:14 車はベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑に来て、そこにとどまった。そこには大きな石があった。人々は、車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として【主】に献げた。

(1) ベテ・シェメシュの人たちは、小麦の刈り入れをしていた。

①小麦の刈り入れの時期は、5 月頃である。

(2) 彼らは驚くべき光景を目にした。

- ①牛車に載せられた契約の箱が近づいて来るのを目にした。
- ②彼らはそれを見て喜んだ。
- ③車は、ベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑に来て、そこにとどまった。

(3) 人々は【主】に全焼のささげ物を献げた。

- ①そこには大きな石があった。
 - *大きな岩盤であろう。これを祭壇として用いた。
- ②車の木を割り、それを薪とした。
- ③雌牛をほふり、全焼のささげ物とした。
 - *これを行ったのは、祭司たちである。

2. 15 節

1Sa 6:15 レビ人たちは、【主】の箱と、そばにあった金の品物の入っている鞍袋を降ろし、その大きな石の上に置いた。その日、ベテ・シェメシュの人たちは全焼のささげ物を献げ、いけにえを【主】に献げた。

(1) ベテ・シェメシュは祭司の町である。

- ①住民たちは、律法の教えをよく理解していた。
- ②レビ人たちが、契約の箱と金の品物の入っている鞍袋を下した。
- ③祭司たちが、全焼のささげ物を【主】に献げた。

3. 16 節

1Sa 6:16 ペリシテ人の五人の領主は、これを見て、その日エクロンに帰った。

(1) ペリシテ人の 5 人の領主は、災いが超自然的なものであることを確信した。

- ①彼らは、ベテ・シェメシュの人たちが【主】にいけにえを献げるのを目撃した。
- ②これを見て、その日エクロンに帰った。

4. 17 節

1Sa 6:17 ペリシテ人が償いとして【主】に返した金の腫物は、アシュドデのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つであった。

(1) 5 つの金の腫物

- ①腫物の形をした金の償いの品である。
- ②5 つの町が、それぞれ 1 つを献げた。

* アシュドデ、ガザ、アシュケロン、ガテ、エクロン

5. 18 節

1Sa 6:18 すなわち、金のねずみは、五人の領主に属するペリシテ人の町の総数によっていた。それは、砦の町と城壁のない村の両方を含んでいる。彼らが【主】の箱を置いたアベルの大きな台は、今日までベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑にある。

(1) 5 つの金のねずみ

- ① ねずみの害からの解放を願う償いの品物である。
- ② 5 大都市がそれぞれ 1 つの金のねずみを献げた。
- ③ 城壁のない村もその企画に参加した。

(2) 大きな石が記念となる。

- ① 「アベルの大きな台」は、「契約の箱が置かれた大きな石」である。
- ② アベルは固有名詞ではなく、草原であろう。
- ③ この大きな台は、今日までベテ・シェメシュ人ヨシュアの畑にある。

(3) 旧約聖書では、神の御業を忘れないために石を立てることがしばしば行われた。

- ① 創世記 28 章のヤコブの石の柱
- ② ヨシュア記 4 章のヨルダン川の石
- ③ 1 サムエル 7 章のエベン・エゼル

II. 契約の箱のキルヤテ・エアリムへの移動 (6 : 19 ~ 7 : 1)

1. 19 節

1Sa 6:19 主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。【主】の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。【主】が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。

(1) 主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。

- ① 人々が契約の箱の周りに集うようになった。
- ② やがて、【主】への畏敬の念が薄れ、契約の箱の中を見る者が出た。
- ③ 民のうち 70 人、すなわち千人に 5 人が打たれた。
- ④ 祭司の町であるだけに、裁きも厳しい。

(2) 【主】が激しく怒られた理由

- ① 民 4 : 5 ~ 6

Num 4:5 宿営が出発するときは、アロンとその子らが入って行って、仕切りの垂れ幕を取り

降ろし、あかしの箱をそれでおおい、

Num 4:6 その上にじゅごんの皮の覆いを掛け、またその上に真っ青の布を広げ、担ぎ棒を通す。

②民 4 : 18~20

Num 4:18 「あなたがたは、ケハテ人諸氏族の部族をレビ人のうちから絶えさせてはならない。

Num 4:19 あなたがたは彼らに次のようにして、彼らが最も聖なるものに近づくときに、死なずに生きているようにせよ。アロンとその子らが入って行き、彼らにそれぞれの奉仕と、運ぶ物を指定しなければならない。

Num 4:20 彼らが入って行って、一目でも聖なるものを見て死ぬことのないようにするためである。」

③ベテ・シェメシュの人たちの罪は、エリのふたりの息子の罪に似ている。

2. 20 節

1Sa 6:20 ベテ・シェメシュの人たちは言った。「だれが、この聖なる神、【主】の前に立つことができるだろう。私たちのところから、だれのところに上って行くのだろうか。」

(1) 祭司の町ベテ・シェメシュは、契約の箱を恐れた。

①人間は、聖なる神、【主】の前に立つことができないと感じた。

②契約の箱を引き受けてくれる町を探した。

3. 21 節

1Sa 6:21 彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が【主】の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところに運び上げてください。」

(1) キルヤテ・エアリムが選ばれた。

①この町は、ベテ・シェメシュから 15km ほど北東にある町である。

②そこに住むアビナダブの家へ契約の箱が運ばれる。

4. 1 節

1Sa 7:1 キルヤテ・エアリムの人々は来て、【主】の箱を運び上げ、丘の上のアビナダブの家に運んだ。そして、【主】の箱を守るために彼の息子エルアザルを聖別した。

(1) キルヤテ・エアリムでは悲劇は起きなかった。

①キルヤテ・エアリムの人々は、契約の箱に畏敬を示した。

②丘の上のアビナダブの家に安置した。

*アビナダブはレビ人の家系であろう。

*高き所は、礼拝の場に適している。

③契約の箱を守るために、アビナダブの息子エルアザルを聖別した。

(2) そして箱はそこで約 20 年間保管されることになる。

①契約の箱は、シロには戻らなかった。

②シロは、エリ家への裁きによって事実上その役割を終えていた。

(3) 20 年という長い期間は、イスラエルが霊的回復へ向かう準備期間となる。

①サムエルの指導力が確立される。

②民の悔い改めが進む。

③ミツパで霊的覚醒が起こる。

④ペリシテ人からの解放が始まる。

⑤1 サム 7 : 1 は、士師時代の混乱からサムエル時代の霊的刷新への転換点。

結論：今日の信者への適用

1. 神を自分流で礼拝していないか

(1) ベテ・シェメシュの人々は、契約の箱の帰還を喜んだ。

(2) しかし、その後、彼らは神が定めた境界線を越えてしまった。

(3) 私たちにもその危険性は付きまとう。

①神を愛している。

②礼拝を楽しんでいる。

③奉仕に熱心である。

(4) それでも、神のみことばよりも自分の考えを優先するなら、神を自分流に礼拝していることになる

(5) 真の礼拝とは、熱心さを神に献げるのではなく、神のことばに従うことである。

2. 神の愛だけでなく、神の聖さを覚えよう

(1) 現代の教会では、神の愛が強調されることが多くある。

(2) ベテ・シェメシュの人々は教訓を学んだ。

「この聖なる神、【主】の前にだれが立つことができるだろう」

(3) 十字架の恵みの大きさは、神の聖さを知るほどに理解できるようになる。

(4) 神への畏敬の念を失った信仰は、やがて表面的なものになる。

3. キリストによって大胆に神に近づこう

(1) 「だれが【主】の前に立つことができるだろう」

(2) これは、旧約聖書全体が投げかけている問いである。

(3) その答えが新約聖書で与えられる。

(4) 私たちは自分の義によって神に近づくことはできない。

(5) しかし、大祭司であるキリストによって近づくことができる。

「ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」(ヘブ 4:16)

(6) 私たちは恐れて逃げる者ではなく、恵みによって近づく者である。